

宮城県感染症発生動向調査情報

平成29年3月16日発行

－ 2017.3.6～ 2017.3.12－第10週－

1. 集計

上段は患者発生数、下段は定点当り

疾 病	保 健 所							仙 台 市 患者数	宮 城 県 (含 む 仙 台 市)					
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼		患者数	累計	第7週	第8週	第9週	第10週
水痘	1 0.20	2 0.20	1 0.20	2 1.00		4 0.80	1 0.50	7 0.26	18 0.31	276	○	レ	○	レ
流行性耳下腺炎		6 0.60						6 0.22	12 0.20	114				
百日咳									0 0.00	1				
感染性胃腸炎	21 4.20	42 4.20	8 1.60	10 5.00	7 2.33	9 1.80		140 5.19	237 4.02	2,041	◎	◎	◎	◎
手足口病									0 0.00	11				
伝染性紅斑		1 0.10							1 0.02	23				
突発性発しん	1 0.20	2 0.20	4 0.80	1 0.50	2 0.67	3 0.60		19 0.70	32 0.54	257	○	○	○	○
ヘルパンギーナ									0 0.00	0				
インフルエンザ	189 23.63	165 11.00	99 12.38	56 18.67	104 20.80	178 22.25	30 7.50	546 12.41	1367 14.39	21,750	◎	◎	◎	◎
咽頭結膜熱		2 0.20			11 3.67	1 0.20		20 0.74	34 0.58	146				○
流行性角結膜炎	2 2.00	1 0.33				1 1.00			4 0.33	21				
急性出血性結膜炎									0 0.00	0				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	44 8.80	25 2.50	11 2.20	6 3.00	2 0.67	39 7.80	6 3.00	69 2.56	202 3.42	1,786	◎	◎	◎	◎
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)									0 0.00	2				
無菌性髄膜炎									0 0.00	0				
マイコプラズマ肺炎							2 2.00	2 0.40	4 0.33	68				
クラミジア肺炎(オウム病は除く)									0 0.00	0				
RSウイルス感染症	1 0.20		1 0.20					3 0.11	5 0.08	87				
感染性胃腸炎(ロタウイルス)								2 0.40	2 0.17	7				
拡 張 疾 病	マイコプラズマ肺炎(小児科)	8	2	2		2	1		3		◎: 流行の変化について、今後の情報に十分注意 ○: 発生または流行について、今後の情報に留意 レ: 発生が少なくなっている傾向			
	川崎病													
	不明発疹症								1					

※今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告) 17例

2. 全数報告疾病

1類感染症: 報告なし

2類感染症: 結核

仙南管内 女性1名(第6週)、女性1名
栗原管内 男性1名
仙台管内 男性1名、女性1名、男児1名*

3類感染症: 報告なし

4類感染症: 報告なし

5類感染症: アメーバ赤痢

仙台管内 女性1名
カルバペネム耐性腸内細菌感染症(*E.coliaceae*)
仙台管内 女性1名
風しん
仙台管内 女性1名

※男児は6歳未満

【定点把握対象疾患】

[インフルエンザ]

仙南、塩釜、大崎、登米、石巻、仙台管内で警報継続中
栗原管内で注意報値を超えた

[A群溶血性レンサ球菌咽頭炎]

仙南、石巻管内で警報継続中

【病原体検出情報】

～宮城県保健環境センター～

インフルエンザ患者より

大崎管内 第9週採取分 インフルエンザウイルスAH3型 1件

～仙台医療センターウイルスセンター～

	確 定	中 間 報 告	
	第7週採取分 (2.13～2.19)	第8週採取分 (2.20～2.26)	第9週採取分 (2.27～3.5)
インフルエンザウイルスA(H1)pdm9	1件	0件	0件
インフルエンザウイルスA(H3)	4件	2件	1件
インフルエンザウイルスB	0件	1件	2件
アデノウイルス	0件	8件	3件
単純ヘルペスウイルス	0件	0件	1件
サイトメガロウイルス	1件	0件	0件

4. 今週のコメント

【咽頭結膜熱】

今週、登米管内で定点当たりの患者報告数が3.76人となり、警報値を超えました。咽頭結膜熱は発熱・咽頭炎・眼症状が主症状の急性ウイルス感染症で、アデノウイルスの感染により引き起こされる感染症です。プールでの集団感染例が多いことから、日本では「プール熱」と呼ばれることがあります。小児での感染例が多く、通常の流行のピークは夏季ですが、アデノウイルスは季節を問わず散発的な感染がおこることから、保育園や幼稚園、地域内などで小流行がおこることがあります。飛沫感染や手指を介した接触感染が主な感染源ですが、プールを介した場合には、ウイルスに汚染された水から結膜を介した感染も考えられています。また、眼脂からの感染を防ぐために、タオルの共用を避けるなどの予防も重要です。

宮城県定点週報告対象疾病の推移

